

支え励まし合う「第二の家族」

いま No.411
子どもたちは
森の学校 9

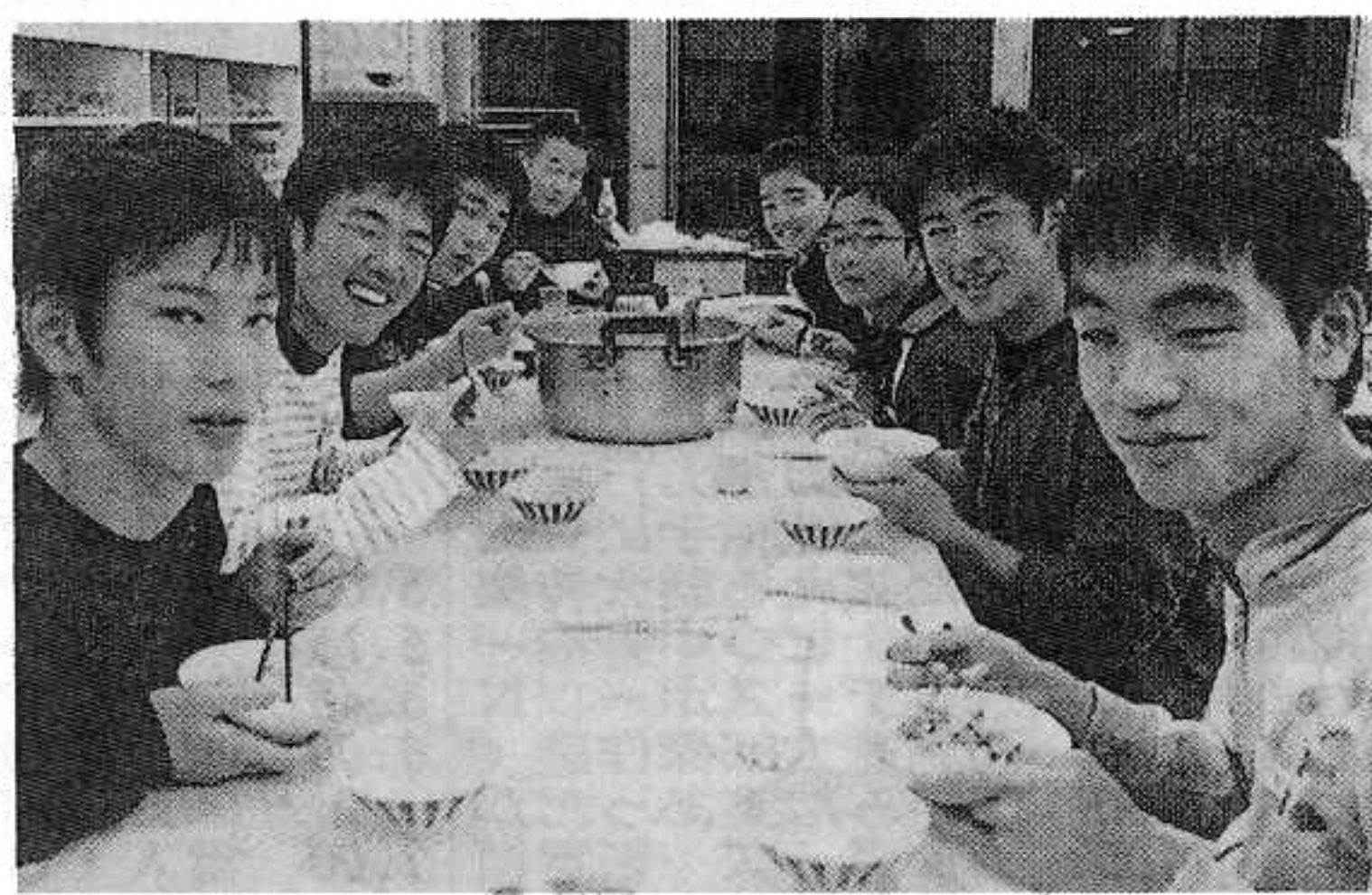
「やべー、うめー」
宮崎県立五ヶ瀬中等教育学校の男子生徒7人が11月初旬の土曜日、学校の調理室で作った「ホルモン鍋」をかき込んでい

た。

全寮制の同校では、先輩と後輩の結びつきを深めるための「ファミリー制度」がある。ファミリーは、1年から6年（高校3年）までの各1〜2人と教諭1人で構成する。男女別。メソッドは変わらない。ファミリーごとに、学校や教師の自宅で年数回の食事を開くほか、わざわざ作りや寮の菜園での野菜栽培、誕生会などをする。

この日は、6年生の笹原翔君（18）のファミリーが約1年ぶりの食事をしていた。できた鍋を囲みながら、笹原君は5年生が来月、修学旅行でシンガポールに行くこと聞き、昨年の自分の体験を話した。

「海外って、治安が悪そうで行きたくなかったけど、行ってみると人は親切だし、英語も通じて楽しかった」。後輩たちはうらやましそうに耳を傾けた。



「ファミリー」とホルモン鍋を食べる笹原翔君（左から2人目）＝宮崎県五ヶ瀬町

「海外って、治安が悪そうで行きたくなかったけど、行ってみると人は親切だし、英語も通じて楽しかった」。後輩たちはうらやましそうに耳を傾けた。

「海外って、治安が悪そうで行きたくなかったけど、行ってみると人は親切だし、英語も通じて楽しかった」。後輩たちはうらやましそうに耳を傾けた。

（斉藤純江）